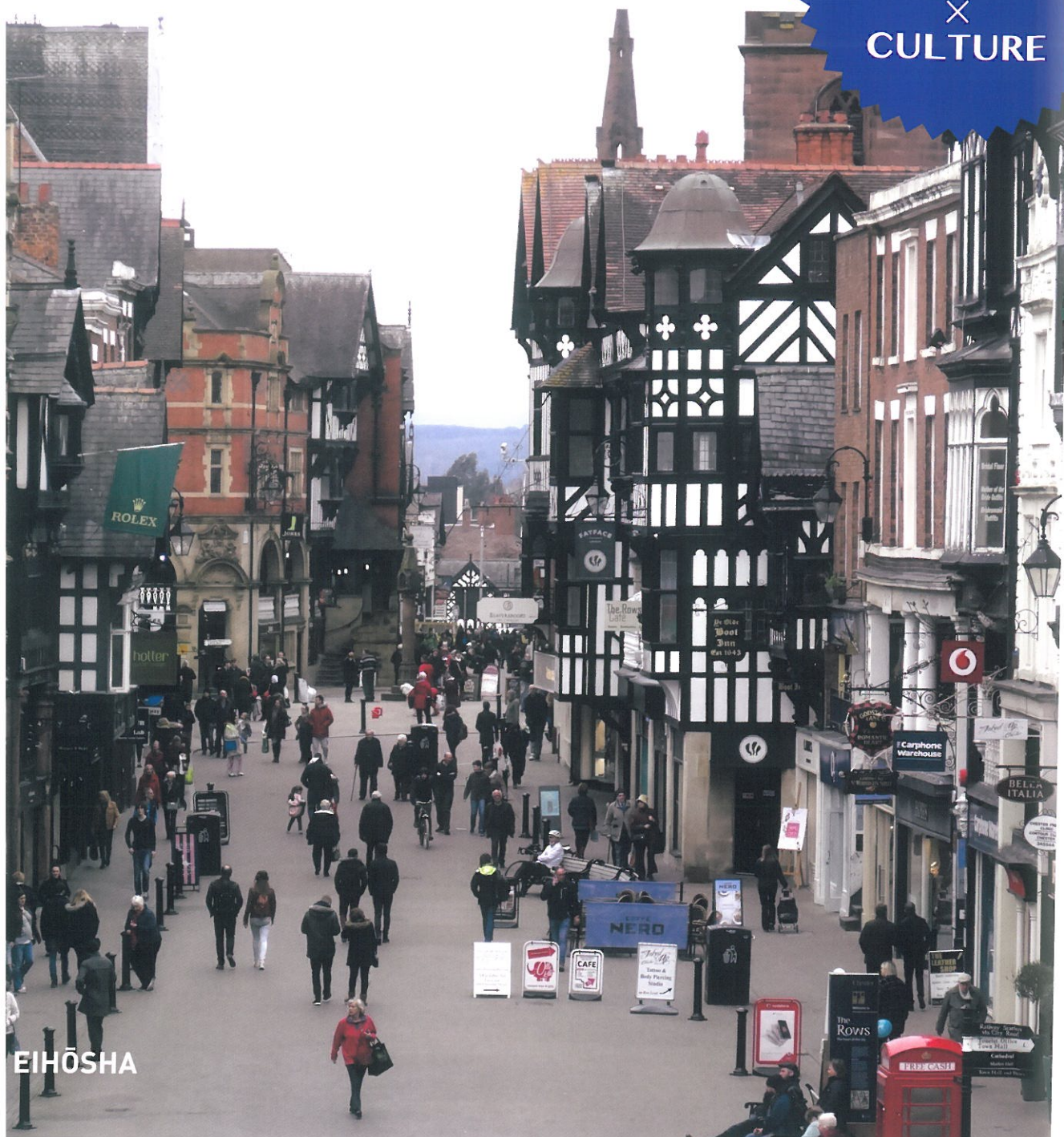


# ENGLISH for Study Abroad



Akira Inoue Shinako Imaizumi Christopher Connelly

PEOPLE  
×  
LANGUAGE  
×  
CULTURE



EIHO SHA







3



4





7



8



9



10





13



14



# English for Study Abroad

PEOPLE × LANGUAGE × CULTURE

Akira Inoue Shinako Imaizumi Christopher Connelly

EIHO SHA

## 口絵解説

- 1 ロンドンの地下鉄 Oxford Circus 駅
- 2 ロンドン中心部の大通り、リージェント・ストリート
- 3 ロンドンとマンチェスターをむすぶ、ヴァージン鉄道
- 4 マンチェスターの2階建バスの2階最前列から街を眺める
- 5 マンチェスターにも、雲一つない青空の日もある - テキスト UNIT 6 (p. 43) を参照
- 6 いかにマンチェスターらしい曇り空の日 - テキスト UNIT 6 (p. 43) を参照
- 7 マンチェスターの中心部、カナル・ストリート周辺に広がる、ゲイ・ヴィレッジは、年に1度開催されるイベント、マンチェスター・プライドのスタート地点でもある
- 8 イングランド最大の保養地であるブラックプール
- 9 リヴァプールの街ではいたるところで The Beatles の4人に出会える
- 10 リヴァプールの巨大オブジェ、Super Lamb Banana
- 11 リヴァプールで70年以上つづく果物屋さん
- 12 人懐っこいリヴァプールの人たちはおしゃべり好き
- 13 イングランドの人々がこよなく愛する料理といえば、Fish and Chips
- 14 晴れた日のヨークにて、ウーズ川をのぞむ
- 15 リヴァプールのカフェ。道行く人たちがフレンドリーに声をかけあう
- 16 チェスターのパブ、Watergates は、中世の石造りの地下室にあったアーチ型のワインセラーを改造したもの

## はじめに ～体感型「留学英語」のクラスへようこそ～

生まれてはじめて、日本以外の国へ第一歩を踏み出し、そこで暮らし、学ぶことは、非常に大きな挑戦であり、それだけに大きな希望と不安が伴うものです。とりわけ1カ月未満の短期留学の場合、ようやく慣れた頃に帰国の日がきてしまうのではないかと、せっかく行くなその機会をムダにしたいけれども、どんな準備をすればよいのか、いったい何から手をつければよいのか見当がつかない…そんな不安を抱えて、留学相談室に足をはこぶ学生さんも少なくありません。

そこで、本書は、**イングランドの街角**を舞台に、これまででない「**体感型**」の留学準備教本をめざし、渡航前の迷いや不安を軽くする手助けをするべく、さまざまな工夫を凝らしました。現地の人々の普段着のことばに触れ、その背後に流れる文化を少しでも「体感」することができれば、留学を考えている国・地域、そして、そこに暮らす人々についての具体的なイメージをもつことができるはずです。以下に、本書の特徴とメニューを簡単に説明しておきましょう。

\* \* \* \* \*

### 生の対話をライブ録音した音源で現地のことばを体感

本書の第一の特徴は、全編にわたって、筆者と現地の人たちとの生の対話をそのまま録音した音源と、その書き起こしを教材としていることです。頭のなかで組み立てた想定問答や、言いよどもなまりもない模範的な発音で録音されたリスニング教材は、たしかに「お手本」としては役に立ちますが、つくられたものであることは否めません。お手本だけを徹底的に頭に入れて現地に行くと、現実とのあまりに大きなギャップに、ただならないショックを受けることになりかねません。こういったショックを受けることもまたよい経験ではあるのですが、渡航前に「なまりのない英語はない」ということを体感しておくことは、よい心（と耳）の準備になるはずです。考えてみてください。どんなに熟練のアナウンサーでも、日常生活では、どこかになまりのある日本語を話しているはずですよ。くわえて、地域や職業によって、話し方や語彙にさまざまなバリエーションがあるのが「生きたことば」です。英語圏でも同じことです。

本書では、イングランドの地方都市を舞台に、語学学校からカフェ、駅やバス停から郵便局、両替所や観光案内所、サッカーグッズや果物を売る露店など、さまざま場所で出会った人々に、筆者が実際に話しかけ、ことばを交わした生の対話をライブ録音したものをそのままリスニング教材としています。くわえて、比較対照のために、同じ内容をできるだけなまりのない標準的な英語で読み直してもらったもの、いわば「お手本」も用意しました。両者を聴きくらべることで、まずはそのギャップを体感してください。また、なまっているだけではなく、言い間違えたり、突然話題が飛んだりする現地の人々の普段着の英語に触れることで、間違えることは問題ではないということ、さらにいえば、「なんだ、みんな一緒だなあ」と感じてもらえたらと思います。

## オリジナル動画と画像で街歩きを体感

本書の第二の特徴は、筆者が現地を歩き撮影してきたオリジナル動画と画像をつかって、ヴァーチャルな街歩きを体感できるようにしていることです。飛行機がイングランドに着陸する瞬間から、市内電車によって街中を移動するときに窓から見える風景、サッカーの試合がある日のマンチェスター市内の賑わいや、ビートルズが生まれた街の風景、愉快的看板など、街歩きの気分を楽しみながら、ひと足先にその場にいるあなたを思い描いてみてください。

次に、本書のメニューです。

### まずは現地を「体感」：

まず、各ユニットで、ビデオカメラのアイコンがついている箇所は動画に、ヘッドフォンのアイコンがついている箇所は音声にそれぞれ対応しています。音声は、まず DISK 1 の標準的な「お手本」の音源を聞いてほしいの内容を確かめてから、次に、DISK 2 のライブ録音による「実際の声」の順に聞くとわかりやすいかもしれません。敢えて「お手本」は聞かずに、まず「実際の声」を聞いてみて、どこまで聞き取れるかを確認してみてもよいでしょう。

### 基本的な語彙・文法の復習：

視覚と聴覚をフルにつかって現地を「体感」したあとは、基本的な語彙・語法を復習しながら、学んだ内容を無理なく使いこなせるように練習しましょう。各ユニットの Key words and phrases は、おさえておきたい基本的な語彙、文法事項のほかに、イギリス英語とアメリカ英語の対比に力点を置いて解説してあります。是非、多様な英語のすがたに触れていただきたいと思います。

### Grammar・Expressions・Information：

また、それぞれのユニットに **Grammar, Expressions, Information** というコラムを用意しました。**Grammar** では、日本人学生が混乱しがちな文法のポイントを、例をつかって詳しく解説してありますので、各ユニットの内容と結びつけて、しっかり整理しておきましょう。**Expressions** では、特に日常生活のなかで特に使用頻度が高いと思われる表現を取りあげました。現地の人たちと心近く会話を楽しめるよう、基本的な表現に親しんでおきましょう。**Information** は、渡航前に知っておきたい現地の生活・文化情報を短くまとめてあります。基礎力のアップとともに、留学ガイドとしても活用してください。

### 練習問題 A・B：

各ユニットの最後のしあげは、そのユニットで学んだ表現をつかった練習問題です。練習問題 A は、キーワードを空所に埋めながら英文を完成させる問題です。くりかえし練習して基本的な表現を定着させたあと、応用編の練習問題 B にすすみましょう。各問題にヒントをつけてありますので、それらを参考にしながら、丁寧に解答してください。

日本人学生は「内向き志向」であるとよくいわれます。これでは、まるで海外留学への関心が低いかにようにみえるのですが、2014年度、海外留学をした学生は、実に8万人を越えており、2009年度と比較すると倍増しているのです（日本学生支援機構の調査結果による）。実際、日本の大学で留学支援の現場にいと、現役の学生さんたちが決して内向きではないことがよくわかります。長期休暇を利用した資格取得やインターンシップなど、留学以外の選択肢が多様化していることは事実ですが、海外留学（特に、短期の語学研修）に強い関心を寄せる学生数が減っているというわけではありません。実際、今、この瞬間にも留学に挑戦したいと考え、すでにそのための準備を進めているという学生さんが、私たち筆者のまわりにもたくさんいますし、それは、みなさんの大学でも同じでしょう。

留学・語学研修の渡航先、期間、学びのスタイルなどに、こうしなければならないといった決まりもなければ、正解もありません。留学したいと決意した人の数だけ、留学のスタイルがあり、それは百人百様です。ただ、冒頭に書いたように「なまりのない英語はない」—これは世界のどこに行っても同じことです。英語が「世界のことば」のひとつとして機能している現代では、話す人の数だけ英語があるといってもはや過言ではないでしょう。本書は、イングランドの北部なまりの英語をおもな素材としていますが、北米大陸でも、オセアニアでも、さらにはアジアでも、なまりのない英語はありません。本書で「体感」した経験は、どこに行ってもみなさんの力になるはず。本書の全12ユニットを学び終える頃には、イングランドの街角から聞こえてくる声に慣れ、何だか心近いともだちに会いに行くような気持ちになって留学準備をはじめていただけたら、筆者三人の望外の喜びです。

本書の取材ならびに執筆は、平成28年度愛媛大学教育改革促進事業（採択プログラム名：法文学部人文社会学科実践科目群「基礎留学英語」で活用するオーダーメイド型短期英語研修準備教科書の新規開発）の助成を受けて行われました。また、出版にあたっては、下村幸一様をはじめ、英宝社のみなさまに大変お世話になりました。末筆ながら、記して感謝申し上げます。

2017年8月

井上 彰  
今泉 志奈子  
クリストファー・コネリー

# Contents

|                                                   |    |
|---------------------------------------------------|----|
| Unit 1 Let's complete LANDING CARD on board ..... | 7  |
| Unit 2 Living and studying in Manchester .....    | 14 |
| Unit 3 Can I order now? -1 .....                  | 20 |
| Unit 4 Can I order now? -2 .....                  | 26 |
| Unit 5 Buying your ticket .....                   | 34 |
| Unit 6 Asking questions -1 .....                  | 40 |
| Unit 7 Studying in Liverpool .....                | 46 |
| Unit 8 Asking questions -2 .....                  | 53 |
| Unit 9 York-Shambles and flood .....              | 60 |
| Unit 10 JAPAN .....                               | 67 |
| Unit 11 Various voices in the UK .....            | 74 |
| Unit 12 Signboards .....                          | 82 |

# Unit 1

## Let's complete LANDING CARD on board

飛行機はもうすぐイギリスに到着します。あと少しの時間を利用して、客室乗務員 (cabin crew) からもらった LANDING CARD (入国カード) に必要事項を記入します。もしまだもらっていないければ、"Can I have a LANDING CARD, please?" と一言客室乗務員に声を掛けましょう。記入すべき必要事項 (今乗っている飛行機の便名、イギリスでの滞在先の住所、パスポート番号など) をメモにまとめておくと、機内で記入するときとても便利です。

まずは LANDING CARD に記入する練習をしてみましょう。

Border Force

Please complete clearly in English and BLOCK CAPITALS

LANDING CARD

Immigration Act 1971

Family name

First name(s)

Sex

☐ M

☐ F

Date of birth

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

Town and country of birth

Nationality

Occupation

Contact address in the UK (in full)

Passport no.

Place of issue

Length of stay in the UK

Port of last departure

Arrival flight / train number / ship name

Signature

## Key words and phrases

**Border Force** 国境管理

**Immigration Act 1971** 1971 年移民法 act = 法令

**complete** 〈書類など〉に全部記入する

**BLOCK CAPITALS** ブロック体の大文字

**the UK** 連合王国 (The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland = グレートブリテンおよび北アイルランド連合王国 イギリスの公式名)

### Let's complete Landing Card:

Before your plane arrives in the UK, a cabin crew member will give you a Landing Card. It is a very good idea that you complete your Landing Card **on board** so that you can proceed to **Passport Control** @UK Border smoothly.

### Date of birth

**Fill in the blanks** in order of date, month, and year from the left to the right side. If your date of birth is August 15 in 2000, add 0 before 8. | 1 | 5 | 0 | 8 | 2 | 0 | 0 | 0 |

### Town and country of birth

**Fill in** the names of the prefecture and the country where you were born like "HYOGO JAPAN"

### Nationality

If you are Japanese, "JAPANESE" or "JAPAN" will **do**.

### Contact address in the UK (in full)

Fill in the address through which they can make contact with you at any time while you are in the UK. Write the complete address of your **Hall of Residence**, your host family, or your hotel.

### Port of last departure

Fill in the name of the airport at which you **boarded** the **flight** for the UK. If you left Kansai International Airport and changed planes at Incheon International Airport in Korea, your port of last departure is "INCHEON" (or "SEOUL").

### Arrival flight

Fill in the flight number of the plane for the UK you boarded like OZ521 (アジアナ航空 521 便)

### Signature

Write your signature **as you did in your passport**.

## Key words and phrases

**on board** 機内で

**Passport Control** 《主にイギリス英語》入国審査 cf. 《アメリカ英語》immigration control

**fill in the blanks** 空欄を埋めなさい

**fill in** 〈必要事項〉を記入する

**do** [自動詞] よろしい、十分である e.g. That will do. それでけっこうだ

**Hall of Residence** 《イギリス英語》学生寮 cf. 《アメリカ英語》dormitory

**board** …に乗り込む

**flight** 飛行便（今乗っている飛行機のこと）

**as you did in your passport** パスポートに（署名）したとおりに

さあ飛行機が London Heathrow Airport に着陸します。🛬1

### Information

ここから空港の外に出るまでの流れを確認しておきましょう。

降機 (offboarding) → 入国審査 (Passport Control @UK Border) → 荷物受け取り (Baggage Claim) → 税関 (Customs Control) の順番で手続きをしたあとに、出口（《イギリス英語》では “Way out”）に向かいます。

※入国審査を受けるのに長蛇の列（《イギリス英語》では “queue” cf. 《アメリカ英語》line）が出来ることもあり、その場合入国審査を受けるまで 1 時間以上かかる場合もあります。

空港からロンドン市内への移動には地下鉄 Piccadilly line を利用しましょう。一番安くて渋滞にも巻き込まれません。所要時間は 1 時間程度。目的地がマンチェスターやリヴァプールなど北部の都市の場合、途中の Green Park Station で Victoria line に乗り換えて、マンチェスターやリヴァプール行きの列車が発着する London Euston Station へ向かいましょう。列車の切符の買い方は **Unit 5 Buying your ticket** で練習します。ちなみに《イギリス英語》で「地下鉄」は “underground” または “tube” と言います。また《イギリス英語》で “subway” は「地下鉄」ではなく「地下道」の意味になります。



この看板は「この下の地下道 SUBWAY は地下鉄 UNDERGROUND の駅に通じている」ということを表しています。

12時間のフライトの後、大きなスーツケースを持って、乗り換えを含む地下鉄での約1時間の移動は大変です。マンチェスターやリヴァプールなど北部の都市へ行く場合、ヨーロッパの諸都市で乗り継いで、直接マンチェスターに入る方が便利かもしれません。

### 入国審査時のサンプル会話

Officer: Next, please!

#### ✓ 名前確認と写真照合

Officer: Good morning. **Can I have your name, please?**

Student: Akira Inoue.

Officer: [*Carefully looking at the photo on the first passport page and then Akira's face*] Hat off, please. Akira.

Akira (Student): **Oops**, sorry!

Officer: Do you always wear glasses?

Akira: [*Taking off his glasses*] **Not always**, actually. I always wear contact lenses.

時にはこんなことも… 😊 :

Officer: [*Smiling*] You have changed your hair, right?

Student: Yes, I have just **had my hair dyed**.

Officer: You look great!

Students: Thank you, sir!

#### ✓ 滞在期間と目的

<1ヶ月の語学研修 学生寮の場合>

Officer: **How long are you staying** in Britain?

Student: For a month.

Officer: The purpose of your stay?

Student: Studying English at **Kaplan International Liverpool**. Here is **a letter of acceptance** from Kaplan.

Officer: OK. Where will you be staying in Liverpool?

Student: I am staying at the Hall of Residence, Ablett House in Liverpool in Great Crosshall Street.

Officer: Can I have the address?

Student: Here is the document that I received from the students' **accommodation office**.

<2週間の語学研修 ホームステイの場合>

Officer: How long will you stay in London?

Student: Well, I will not stay in London. I am moving to Manchester today.

Officer: Manchester? What is the purpose of your stay in Manchester, then?

Student: Studying English at General English course at **INTO Manchester**.

Officer: **Have you got** any documents which prove that you will be a student at INTO Manchester?

Student: Yes. Here's a letter of acceptance that I received from INTO Manchester.

Officer: Fine. Where will you be staying while you are in Manchester?

Student: I am staying at my host family's house. My host mother lives in Bramhall.

Officer: Can I have her address?

Student: Here is a letter I received from the students' accommodation office.

### ✓ 出国予定日

Officer: When will your English course end?

Student: After four weeks. I will be leaving Liverpool in the fifth week.

Officer: Are you sure you are leaving in your fifth week?

Student: Yes, I am. I have already purchased my tickets to get back to Japan. **Here you are.**

[showing the printed version of **e-tickets** which proves that the Student has already **booked**/purchased his flight(s) back to Japan.]

Officer: Thank you. Enjoy your stay.

Student: Thank you very much.

こんな挨拶も… ☺ :

Officer: Thank you very much. **Have a lovely day!**

Student: Thank you! You, too!

## Key words and phrases

**Can I have your name, please?** 名前を教えてください have = …を手に入れる、もらう

e.g. Can I have her address? 彼女の住所を教えてください

**Oops** おっと、しまった

**Not always** 〈部分否定〉 いつも (必ずしも) …というわけではない

e.g. I'm not always free on Sundays. 日曜日はいつも暇だとはかぎりません

**had my hair dyed** 髪の毛を染めてもらった。have = 〈物を〉 …してもらう

e.g. When did you last have your hair cut? この前に髪を切ってもらったのはいつですか

**How long are you staying** どのくらい滞在する予定ですか

現在進行形で近い未来を表す。→ p.37 の **Grammar / Expressions** を参照

**Kaplan International Liverpool** リヴァプールにある語学学校

→ <http://www.kaplaninternational.com/>

**a letter of acceptance** 入学許可証

**accommodation office** アコモデーション・オフィス (学寮やホームステイ先などを学生に紹介したり、それらを管理したりしている部局)

**INTO Manchester** マンチェスターにある語学学校

→ <http://www.intostudy.com/en-gb/universities/into-manchester>

**Have you got...?** → **Unit 3 Can I order now?-1** (p.21) を参照

**Here you are.** はい、ここにあります → **Unit 3 Can I order now?-1** (p. 22) を参照

**e-ticket** 電子チケット 従来の紙の航空券に代わるもの

book 〈…を〉予約する

**Have a lovely day!** 《イギリス英語》すてきな一日をね！ 《アメリカ英語》Have a nice day!

p.22 の Lovely! も参照

以上、大学生が2週間～4週間の語学留学のために入国する場合を想定して、入国審査で予想される問答のサンプルを挙げました。サンプルのなかにも出てきたように、語学留学のために入国する際には、①パスポート、②機内で記入した入国カードにくわえて、③学校から受け取った入学許可書、④滞在予定の学生寮やホームステイ先の情報が記載された書類、⑤帰りの航空券を手元に用意しておくことが大切です。特に、③～⑤はスーツケースに入れてしまわないように、かならず、機内持ち込みの手荷物のなかに入れておいてください（※スーツケースは、入国審査を受けたあとにしか受け取れません。十分に注意しましょう。）

### Column

**パスポートの署名欄はアルファベットか、漢字か。**

このテキストをつかって勉強している学生さんのなかには、研修・留学時にはじめてパスポートを申請、取得するという人も少なくないでしょう。申請手順は、外務省のウェブサイトなどにも詳しい説明があるので、そちらを参照して頂くとよいのですが、よく話題になるのが、パスポートの署名欄の書き方です。署名欄ですから、いわゆる「サイン」なのですが、私たち日本人の名前は、漢字（ひらがな、カタカナ）でも、アルファベットでも表記できるため、どの文字をつかうべきか、迷う人が多いようです。

厳密なルールはないのですが、漢字、アルファベット双方の利点（欠点）があるので、ここはよく考えて選びましょう。漢字表記のメリットは、何ととっても、真似されにくいということです。まして、漢字圏に生まれ育っていない人が真似しようとしてもそう簡単にうまくは書けません。「偽造防止」「安全」のために漢字を選ぶ人はたくさんいます。同じ理由でクレジットカードの署名も漢字で統一している人が多いようです。最近では、4ケタの暗唱番号で認証することが増えたため、クレジットカードをつかったあと署名をするという習慣はごく少なくなっていますが、一部ではまだ残っており、漢字を見て、その珍しさや、デザイン的な美しさがよければ、楽しい会話の糸口になることも。

とはいえ、漢字がいやがられることもあります。特に、欧米圏で漢字サインを書かれると、判読できないので、本人の署名がどうか確証が持てなくて何となくイヤな気持ちにする、と話してくれた店員さんもいました。

では、アルファベットのサインのほうがよいか、というと、こちらも長所と短所があります。長所は、欧米圏の人のスタイルに近く、現地の人も確認しやすい。また、すばやくかけることもメリットでしょう。ただし、すばやく書いて崩しやすいということは、やろうと思えば、誰でも真似ができてしまう危険があるということ。自分なりの崩しかたのルールを決め、すばやくくしゃくしゃっと書いて、真似しづらくすることが大切。

・・・といういろいろ書いてきましたが、一番大切なのは、海外滞在中、パスポートがあなたのもっとも確実な身分証明書になるということです。身元を証明する際はもちろん、公的機関での手続きや、保険の払い戻し、トラベラーズチェックでの支払い時など、本人確認が必要となる場面では、パスポートが必須であり、パスポートこそ、もっとも信頼性の高い文書のひとつと見なされます。ですから、そのパスポートの署名がいかに大切なものであるかは、明らかですよ。きちんとした署名を用意し、必要があれば練習し、真似されないようにすることが、すなわち、自分の身を守ることになるのです。クレジットカードの署名と同じです。欧米のように、はんこを使わない文化圏では、特にサインを大切にしましょう。

# Unit 2

## Living and studying in Manchester

ヒースロー空港到着後、地下鉄を乗り換えて、マンチェスター行きの列車が発着するロンドン・ユーストン駅へ移動します。マンチェスターまでは列車で約2時間の距離。イングランド北部を代表する都市で、産業革命発祥の地でもあるマンチェスターは、20世紀に入って一度は衰退したものの、芸術やスポーツ（特にサッカー）の街として見事に復活を遂げました。そんなマンチェスターで勉強し暮らすことについて、マンチェスターの人に語ってもらいました。

### Arriving at Manchester

It takes about two hours from **London Euston Station** to **Manchester Piccadilly Station** by **Virgin Trains**. The train is now arriving at Manchester Piccadilly Station. 🗣️ 2-1



### 北部イングランドで学ぶ魅力

**Erm**...the reason why I think studying in the north of England is really great is that you... **er**...you may not be in just London **like a lot of people want to be**, but you are actually really in authentic English towns. So, you **get to** really **see** a true side to British life and British people, but you also, these are still multicultural places, so you get to meet people from all over the world. **whilst** you are enjoying life in Britain. Erm, the transport links in the north of England [are] also really, really excellent, too. So, you can **get to** the other parts of the north of England, so if you are in Liverpool, you can get to Manchester **in** about forty minutes, er...or if you want to visit London, you can do in two hours on the train, so you can do that in a day. And we also have international airports in the north as well, so you can **fly** directly into Manchester airport and after that you can travel anywhere you want to. 🗣️ 2-2

### Key words and phrases

**London Euston Station** ロンドン・ユーストン駅 ロンドン中央部の北に位置するターミナル駅の1つ マンチェスターやリヴァプール行きの列車が発着する。

**Manchester Piccadilly Station** マンチェスター・ピカディリー駅 マンチェスターの中央駅で、ロンドンからの列車はこの駅に到着する。

**Virgin Trains** ヴァージン・トレインズ ロンドン・ユーストン駅を拠点に、マンチェスター、リヴァプール、グラスゴーへの列車を運行している。

**Erm** えーと、あのー（躊躇またはことばのつかえた時などの発声）

er = erm

※この教科書ではイングランド北部に暮らす人々の「生の声」を収録しているため、しばしば“erm”や“er”といった、いわゆる「つなぎことば」(= filler)が入っています。耳障りに聞こえるかもしれませんが、これらが入る会話の方がむしろ自然です。

**like a lot of people want to be** 多くの人がそうしたがる(ロンドンに居たがる)ようには

like [接続詞] = …の(する)ように

e.g. I can't do it like you do. 君のするようにはできない

**get to do** 〈人が〉…するようになる、…することができる become to do は間違い

e.g. We got to know each other. 僕たちは知り合いになった

**whilst** 《イギリス英語》 = while

**get to 場所** …に着く

**in** (所用時間、経過時間を示して) …(時間)で、…(時間)たてば

e.g. She'll be back in a few days. 彼女は2、3日で帰ってくるでしょう

**fly** 〈人が〉飛行機で行く

e.g. He'll fly home next Sunday. 彼は次の日曜日に飛行機で帰ります



なぜマンチェスターなの？

I love living in Manchester. I came to study here when I was eighteen and I have not left, so I love this city. Er, it's such a friendly place to live; everyone is so helpful and so welcoming and we also have two great areas: one is, em, **China town where** you can get food from all over the world, and we also have a place called the **Curry-Mile** which...er... is near **where** a lot of the students and universities are, and again you can get the foods from literally **any part from the world**, and it's really, really delicious. 🗣️ 2-3

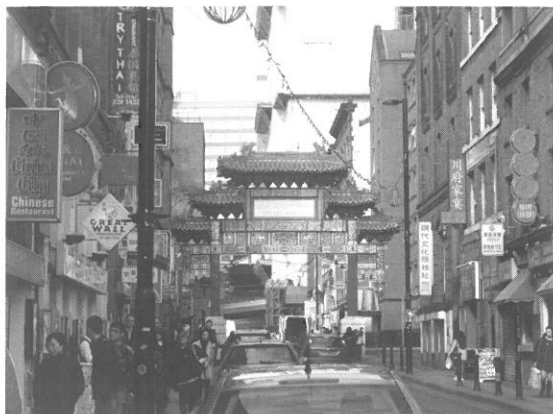
## Key words and phrases

**China town** 中華街 マンチェスターの中華街はロンドンに次いで大きい。

**where** 関係副詞 → p. 17 の **Grammar** を参照

**Curry-Mile** カリー・マイル マンチェスター大学の南にある、南アジアや中東の料理を出す店が集中している通り

**any part from the world** any part **of** the world が普通



マンチェスターの中華街 その近くにはゲイ・ヴィレッジも



カレー・マイル 派手な店構えのレストランや商店が建ち並ぶ



## 2-3 日本人学生へのアドバイス

My advice would be before you arrive, **set yourself some goals** and some **targets** of what you want to achieve, and really **focus on** areas, maybe your spoken word or your written language that you really want to improve and just keep talking to your teachers as well while you are here, because they are all really, really helpful and we are all here to help you to do the best you can do. 🗣️ 2-4

## Key words and phrases

**set yourself some goals** 自分でいくつか目標を設定する

e.g. My mother has set herself a goal of losing 5kg in three months.

母は3ヶ月で5キロやせるのを目標に置いている

**target** = goal

**focus on** …に関心を集中する

e.g. Let's focus on something more realistic. もっと現実的なものに目を向けよう

## Grammar

### 関係副詞の where と先行詞

インタビューの中で関係副詞が 2 度使われています。

One is China town where you can get food from all over the world.

一つは世界中の食材を買うことのできる中華街です

We also have a place called the Curry-Mile which is near where a lot of the students and universities are.

もう一つはカレー・マイルという所があって、そこは多くの大学生がいて、複数の大学がある場所の近くにあります

上の文では関係副詞の where の前に「場所」を表す名詞である China town = 先行詞がありますが、下の文では関係副詞 where の前に先行詞がありません。place などの先行詞は用いられないことがよくあります。

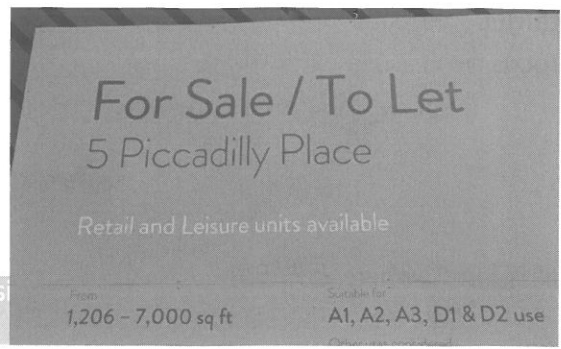
This is [the place] where we live. ここが私たちの住んでいる所です

### Let's ride on a tram and have a look at the city centre. 🗺️ 2-5

Piccadilly Garden から Market Street までの 1 駅間ですが、様々な人種の人々がいることがよくわかります。また服装も、T シャツ 1 枚の人もしれば、真冬の格好をしている人まで、実に様々です。ちなみにこれは 4 月 3 日の映像です。

## Information

トラムの車窓から BURGER KING、COSTA、CAFFÈ NERO といったお店や、マンチェスターの煉瓦や石造りの建物、2 階建てバスなどが次々に飛び込んできます。また車内では外国語も飛び交っています。またトラムが左折すると "STUDIOS TO LET FLEXIBLE TERMS" という縦長の看板が見えてきますが、これは「貸スタジオ 融通のきく条件で＝家賃は相談に応じます」という意味です。"let" は《イギリス英語》で「〈家、建物など〉を貸す」という意味です。"House To Let" なら「貸家（あり）」、"Room To Let" なら「貸間（あり）」、"Office To Let" なら「貸オフィス（あり）」となります。イギリスではこの種の看板が至る所にあります。"terms" は複数形で「(支払いなどの) 条件」という意味です。



ここで「貸す」と「借りる」を整理しておきましょう。

### [貸す]

**rent** 主語がお金を受け取る側の人の場合（お金を受け取って）…を貸す

Mr Inoue rents us a house. 井上さんは私たちに家を貸している

**let** 《イギリス英語》有料で〈家、建物など〉を貸す = rent

I want to let the room to a student. 学生に部屋を貸したい

**lend** 無料で（人に）〈物〉を貸す

Shall I lend you my umbrella? 私の傘を貸しましょうか

### [借りる]

**rent** 主語がお金を払う側の人の場合（お金を支払って）…を借りる

We are renting our house from Mr Inoue. 私たちは井上さんから家を借りている

**borrow** 〈人が無料で〉…を借りる

Can I borrow your umbrella? 傘を借りることはできますか

**use** 〈人が、その場で使う物〉を借りる

Can I use your bathroom? お手洗いをお借りできますか

## 練習問題 A

1. 彼のするようには歌えません。

I cannot sing [ ] he does.

2. じきにそれが好きになるでしょう。

You will soon [ ] [ ] like it.

3. どのようにして彼と知り合いになったんですか。

How did you [ ] [ ] know him?

4. 1時間で戻ってきます。

I will be back [ ] one hour's time.

5. 東京へは2時間で到着できます。

You can [ ] [ ] Tokyo [ ] two hours.

6. 貸家

House [ ] [ ]